

5) 平成 30 年度前期における「新任教員による授業参観」について

【はじめに】

教員による相互の授業参観は、教育学部設置後実施し、今年度で 5 年目となった。当初、本学部専任教員による教養・専門等の講義・演習において、授業参観のアンケート項目として掲げた「動機づけ、学生とのコミュニケーション、授業方法など」で、適切に実践されているかを教育学部の同僚教員の目を通して確認・検証することを目的としてスタートした。当初は、極めて活発に教員相互の授業参観が行われたが、年々低下し、昨年度は新任教員の授業においてのみ授業参観が行われた。従って、今年度は新任教員の授業を対象に授業参観を実施した。

【新任教員の授業参観(前期)について】

- 1) 実施状況:教育学部に本年度新たに採用した 2 人(3 人採用中 1 人は実習担当のため、2 人について実施)の教員が実施する授業科目を対象に教員による授業参観を実施した。
- 2) 授業参観者:教育学部教員(延人数) 2 人の教員が参観。
- 3) 授業参観期間:平成 30 年 6 月 4 日~7 月 26 日(講義修了)まで。
- 4) 授業参観対象の講義:こども英語活動、保育内容指導法(音楽表現)。
- 5) 評価項目 授業参観の評価項目(別紙参照)は、動機づけ 10 項目、学生とのコミュニケーション 1 項目、講師について 2 項目、技法 8 項目についてアンケート形式とし、それぞれの項目について「良くあてはまる:4 点」~「全くあてはまらない:1 点」及び「該当しない」と思われる点に「○」をマークする。さらに、これらのアンケート項目についてそれぞれ評価点及びその合計を総合評価点とする。また、記述欄を設け、参考となる点や工夫している点等について具体的に指摘する他、自分の授業等で取り入れたいアイデア等あれば記述するようになっている。

教員による授業参観を実施し、評価を整理した結果、それぞれの教員が担当する科目である子どもの英語活動及び保育内容指導法(音楽表現)について、総合評価点(満点:4 点)であった。また、コメント欄について、ともに、授業の構成、内容、授業の進め方、まとめ方などすべての項目で

最大級のコメントがされていた。音楽系の教員は県の支援学校で長年音楽教員として勤めており、スーパーティチャーとして指導的立場で活躍されており、また英語教員は英語検定1級取得者で、大学等において長年英語教育に携わってきている。このようなバックグラウンドもあり、学生による授業評価においても高い評価を得ている。今回授業参観でも満足すべき授業を実践していることが確認された。

以上のように、平成26年度～30年度の5年間にわたる教育学部教員による授業参観を実施した結果（これらについてはすべて本学部HPのFD活動にアップしている）、専任教員はいずれも適切な授業を展開しており、また非常勤講師においても学生による授業評価結果から、ほぼ満足すべき教育が行われていることが確認された。

今回、教育学部の教育の質の維持とその向上を図るためのPDCAサイクルの一環として、全講義・演習・実験における学生による授業評価（及び教員による授業点検シート作成と学部長への提出等）と一部の教員お授業参観を実施したが、PDCAサイクルがほぼ完全に機能していることが確認された。